

対面授業の大切痛感 ■ 安心して学びたい ■ 学費無償化ぜひ

参院議員会館で「一律学費半額を求めるアクション」が30日に行った集会では、オンラインや代読も含め学生5人がスピーチ。授業をめぐる現状や、高学費をはじめ負担増による生活の実態などを訴えました。

一律学費半額を求める アクション集会で訴え

一律学費半額を求めるアクション共同代表の松浦朱里さん（宮城学院女子大学2年生）は、オンラインと対面を併用する「ハイブリッド型授業」を経験し対面授業の大切さを痛感したと発言。こうした授業でさえ行える大学は少ないと述べ、「感染対策などに莫大（ばくだい）なコストがかかるからです。学生や大学の自助努力だけでは限界であり政府の支援が必要です」と語りました。

体育大学に通う4年生の男性は、学生の多くが保健体育の教員免許の取得を目指しており、「オンライン授業になり模擬授業ができない」などの声が上がっていると紹介。「感染対策をしっかりとって、対面式の授業形態に戻してほしい」と話しました。

学生5人切々と



対面授業再開のための予算措置を求める学生たち。30日、参院議員会館

東洋大学3年生の齊藤卓稀（こうき）さんは、高学費問題について発言。日本国憲法でも国際人権規約でも、教育を受ける権利はすべての人に認められていると語り、「国が責任を持って教育にお金を投入し、学費を無償化していくことが重要です」と語りました。

広島市立大学4年生で美術を専攻している山下葉さんは、学生がアトリエに集まれずコミュニケーションがとれないと指摘。「学生

同士のおしゃべりを通して新しい価値観や問題意識が得られる。そういう環境が保障されてこそ大学だと思う。学生が安心して学べる環境をつくってほしい」と求めました。

愛知県にある大学4年生の女性は、愛知県内に通う他の大学生とともに、県議会に対して学生支援と国に高等教育機関への支援を求める要望書の提出を行いたいと語り、「すべての学生に学びの機会を」と訴えました。